

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4490500016 | | |
| 法人名 | 有限会社 白ゆり | | |
| 事業所名 | グループホーム 白ゆり | | |
| 所在地 | 大分県佐伯市上岡1265番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年12月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年3月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 第三者評価機構 |
| 所在地 | 大分市大字羽屋21番地1の212 チュリス古国府宅番館1F |
| 訪問調査日 | 平成22年1月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着し、地域とのつながりを大切にして、地域の人に喜んでもらえる施設を目指しています。 ・協力医療機関との連携による終末期の看取りを行っています。 ・職員間のコミュニケーションも十分取れており、一人ひとり生き生きと働いています。 ・季節感あふれるおいしい手料理を提供しています。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>事業所の周辺は、病院と菜園に囲まれ、大きな騒音も無く、利用者がゆったりと安心して生活ができる環境となっています。また菜園は、水やりや収穫などで地域の人と交流のできる場としても役立っており、利用者は家庭的な雰囲気の中で、のびのびと相手を尊重し、助け合いながら暮らしています。また居室は広く、個々の好みにより馴染みの物を持ち込み、鍵はかけない方針の取組が伺えます。共用空間は手づくりの掲示物が飾られ、利用者が季節感を味わう工夫がなされ、利用者や家族の思いを大切にしながら、理念に基づいた支援を日々取り組んでいるようです。また、職員が迅速・誠意を持っての対応や病院がすぐ近くにあり医師と連絡取れることで、安心できる施設と思われる。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 昨年度の外部評価以降、理念を若干変更し、より地域に密着した理念に変えました。実践に向けて日々取り組んでいます。 | 職員、推進会議、地域の方などの意見を取り入れ、理念の見直しが行われ、利用者が地域の中で、その人らしく暮らせるための支援が伺えます。また理念は家族・訪問者に解りやすく、掲示されています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方に野菜をいただいたり、苑の行事に招いたりして日々交流を図っております。また、地区の祭りなどにも参加させていただいております。 | 地域の行事、お祭り、盆踊り等には積極的に参加され、また地域の集まりの場所としてホームの活用を提言されています。ホームの菜園で地域のボランティアの方と一緒に野菜作り等の活動しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて、地域包括の職員の方や地区の方と情報交換を行っています。高校生を含めたボランティアも積極的に受け入れています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月～3か月に1回開催いたしております。行事や利用状況の報告、苑に対する意見、行事に参加しての感想をうかがい、サービスの向上にいかしています。 | 運営推進会議を7名で構成し、自己評価、外部評価、目標達成計画を運営推進会議に報告され、意見を聞いています。また推進会議での意見・要望は職員に伝え、その対応・改善は、みんなで取り組まれています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 電話連絡を密に取っています。また、必要時は市役所に行って指導をもらっています。苑の実情も報告しています。 | 市職員のホームに受け入れ態勢は十分出来ていますが、職員の来訪が少なく、介護保険制度や利用者に関する事などは、市職員の方へ出向いたり、電話での協議は行っています。 | 市職員に施設の行事、利用者の状況をアピール、また施設の課題等を積極的に問い掛けながら、市職員との関わり合いを取組まれることを期待します。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中はなるべく施錠しないよう努めています。身体拘束をしないようマニュアルを含め勉強をしております。 | 家族から安全の為の拘束や鍵掛けの要望があった場合、身体拘束の廃止など施設の方針を説明し、納得されるよう取組まれています。また近所の人に見守り、声かけ、連絡等が頂けるよう配慮されています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法について理解して、苑内外で虐待が見逃されないよう注意しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 対象利用者がいないためなかなか学ぶ機会がありません。今後必要な利用者が入所された際などは支援を行える知識のある方(地域包括CN等)にアドバイスをもらいながら行いたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族が疑問を抱くことのないよう、十分説明し、同意を得ています。本入所の申し込み時、または体験入所の申し込み時に都度説明しております。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置しています。第三者機関を開示し、意見や要望を受ける機会を設けています。また、面会時に不満、要望を問いかけて、何でも遠慮せず言ってもらえる雰囲気作りを心掛けています。 | 意見箱等を設置し、利用者、家族、親戚が言いにくいことが伝わる配慮がなされ、第三者機関、運営推進会議、市町村の相談窓口等を活用し、苦情・相談・要望を受け入れ、その対応に応じるシステムが出来ています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回職員会議を開催し、職員から意見、要望を聞くようにしています。また、毎朝朝礼を行い、気軽に言ってもらえるような雰囲気を作っています。 | ミーティング、勉強会ではテーマを設置しながら、日常的に感じる職員の気づき、アイデアを利用者の支援に生かされています。運営方法や勤務体制等も職員の意見が反映出来るように取組まれています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人ひとりの意見を尊重し職場に反映できるようにしたいと考えております。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修会が開催される時は可能な限り参加するよう努力しています。また研修の報告会も行っています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH連絡会等で他施設と連絡する機会を設け、交流する機会を作っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所申し込みがあった際は本人、家族と面会し、ADL状態や入所に対する気持ち等確認するようにしています。可能であれば事前に見学していただけるよう努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 過去、現在のサービス利用状況や家族の要望、疑問などに耳を傾けています。また、金銭面を含めた利用料の相談も必要時行っています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 当苑を利用するにあたっては利用者本人の気持ち、ご家族の気持ちなどを確認し繰り返し相談・援助することで信頼関係を築くように努めています。必要に応じ他のサービス利用の援助も行っています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者に対し、介護するだけでなく、自分で出来ることは自分でしてもらい、日々の暮らしをともにする同士の関係が築けるよう努力しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来られた際は日々の出来事や状態の報告を行っています。変わったことがあれば都度電話連絡をして報告をしています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔からのなじみの知人、友人や地区の方にも可能な限り来苑していただいています。また来ていただけるよう声かけしています。電話など利用し連絡、話ができるように努めています。 | 利用者を取り巻く人間関係を把握し、知人、友人等へ電話や手紙で連絡を取り、繋がりを継続できる支援に取り組み、また馴染みの知人、友人等の家に遊びに行くなど職員が継続的に支える体制を取られています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者と会話をすることで、対人関係を把握するよう努めています。対人関係を考えリビングの座席等配慮しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に入所された利用者の家族から野菜の差し入れをいただいたりして関係を維持しています。また、家族が相談に来られた際は相談に応じ、場合によっては他事業所の紹介などを行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人と触れ合う中で、時折の気づきやひらめきを見逃さないようにし、一人ひとりの希望や意向の把握に努めています。利用者一人ひとりにとって最良の暮らしは何か、常に意識を持って努めています。 | 本人がどのように暮らしたいかなど、思いや希望の把握に努められています。また意思疎通が困難な利用者には、日々の行動や表情から把握したり、家族、知人を通して情報を得ているようです。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 知人や家族の面会時にお話をお聞きして少しずつ把握するように努めています。可能な場合は本人からも話を聞いています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の方の出来ることや出来ないことの把握、可能な限り居室やリビングでコミュニケーションを取り、一日の過ごし方等の把握に努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスは職員全員が参加するようにし、利用者の心身の状態の把握をするようにしています。また、定期的に家族に意見や要望を聞き、それらを反映した介護計画を作成できるよう努めています。 | 介護計画は、家族、関係者、職員等で利用者の意向を反映させ、利用者の心身の状態、家族の要望に応じた計画の見直しにも取組まれ、職員の提案等は、職員会議で話し合いがなされ介護計画に反映されています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとり介護計画を作成し日中の様子や気付いたことなど状態を記録しています。カンファレンス、朝礼などで情報を共有し、介護計画の見直しに生かすようにしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者(または家族)一人ひとりのニーズに合わせ、通院や送迎などのサービスを行っています。また、体験入所の受け入れも行っていきます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの方に来所していただき、歌や踊りを楽しんでもらっています。区長、民生委員、地区の班長の方を行事に招待しています。地区の祭りにも積極的に参加しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 苑の敷地内にある協力医療機関の医師が主治医をし、利用者本人や家族の希望を出るだけ可能な限り聞き入れてくれています。 | 同敷地に顕在する医療機関が主治医となり、定期的に往診が施されており、健康管理への協力体制が確立しています。意向を踏まえ、他医療機関への受診にも対応しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 準看護師を1名配置し、健康管理、服薬管理等行っています。不在時は協力医療機関の看護師に必要に応じ協力して頂いています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 最近の利用者の方の入院はないのですが、入院時は定期的に面会に行き、病院関係者の方との相談や情報交換をしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族へ向け終末期に関するアンケートを実施しております。重度化した際は主治医を含め家族と話し合いをし、事業所として出来ること、出来ないことを説明し協力医療機関も含め支援に取り組んでいます。 | 入所時から利用者や家族の終末期への意向を把握しています。さらに、対処できる医療システムについては、入所後に協力医療機関から家族への説明が行われ、主治医と共に重度化による支援に積極的に取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ヒヤリハット用紙を作成し、事故防止に努めています。利用者の急変時、事故発生時は協力医療機関に連絡し指示を仰ぎ、状態に応じて往診してもらうようにしています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災マニュアルを作成しております。避難訓練も全職員、利用者参加し年2回行っています。敷地内の協力医療機関に避難場所の確保を依頼しております。 | 災害時の対応マニュアルが作成されており、消防署の指導の下で避難訓練が実施されています。避難場所は同敷地の地域の医療機関と決めており、協力関係が保たれています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人ひとりに対する声かけや対応が、誇りやプライバシーを損ねないよう、十分気をつけて対応するようにしています。 | 呼び名は、氏を「さん」付けを基本としています。年1回の継続研修が実施されており、利用者一人ひとりとの人格を大切に、個人を尊重した支援の実践に向けて努力しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者一人ひとりの日常生活の中で、思いや希望などの気持ちを把握し、配慮しながら自己決定できるよう支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの希望を大切に、食事時間や外出等、希望に沿った支援ができるよう努めております。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望に合わせたカットパーマをしてもらえるようになじみの美容室に連絡を取り、おしゃれができるようにしています。化粧品、コロンなど、本人の希望する物品の購入の為に買い物等支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食時は「いただきます」等の声かけを利用者の方にしてもらっています。食後は下膳を手伝ってもらっています。食事に時間のかかる利用者さんには、少し早めに配膳して食事を取ってもらっています。 | 台所で職員が当番制で料理しており、温かな食事が提供されています。同じスペースに居間があり、調理の過程で利用者の五感に食の楽しみを注いでいます。下膳・盛り付け等の手伝いの支援に取り組んでいます。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の資格を持つ職員に指導して頂き、栄養バランスや水分量の指導をしてもらっています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの研修会に参加して勉強しています。口腔ケアが必要な利用者には義歯の手入れの手伝いをしています。自分で出来る利用者の方はきちんとできているか確認をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人希望時や定時にトイレの声かけをすることで、排泄パターンをできるだけ把握し、気持ちよく排泄できるよう支援しております。 | 排泄は、一人ひとりの生活パターンに合わせた支援が行われています。体調を考慮した使い易いトイレの整備‘ポータブル’使用には、利用者や家族への事前説明が行われ、トイレで排泄する支援に取り組んでいます。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日バイタルチェックすることで排便の有無の確認をしています。また、水分摂取をすすめ、便秘がちな利用者の方には運動をすすめ、便秘予防に努めています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に入浴は週3回(月・水・金)に実施するようにしていますが、利用者の方の希望や体調に合わせて午前・午後も入浴出来るようにしています。 | 安全を基盤とし、職員二人体制で支援が行われています。また、心地よく・楽しい入浴援助の取り組みとして、一人ひとりの意向や好みを大切にすることで、友達同士の二人での入浴等も行われています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は可能な限り離床して頂き、リビングでレクリエーションやカラオケ等することで生活のリズムを整え、夜間よく眠れるように支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとり薬手帳を用意し、用法や用量等確認しています。また、追加や臨時の薬があった際は連絡ノートや個人の介護記録に記録して職員が把握しています。服薬確認後は症状・変化がないか様子観察し | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自室やトイレの清掃をしたいと言う利用者の方には自分でしてもらい、役割をもってもらっています。また、洗濯物やオシボリをたたんでももらっています。定期的な外出や買い物等で気分転換の支援をしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者の体調や希望に沿ってドライブ、買い物などの支援をしています。家族の協力を得て定期的に外出をする利用者もいます。また、年に1～2回利用者、職員、家族で外出する機会を作っています。 | 個々の利用者の意向に添った支援として、車での買い物・敷地内の散歩や畑での作業が行われています。散歩や野菜作りは、近隣住民への理解とコミュニケーションの機会を助長しています。 | ホームの日常を家族へ十分に理解していただく支援として、一人ひとりの利用者の日常的な外出支援の状況等を、より詳細に家族へ伝達することも大切な取り組みであり、対応策の実践に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で財布(小額のお金)を持っている利用者もいます。事業所預かりの利用者の方もお店が来た際や外出時など必要に応じ自分で支払うようにしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者から希望があった際は家族、知人に電話をかけたたり、かかってきた際は取り次ぐようにしています。また、手紙を出すこともしています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには四季おりおりの花を飾って季節感を取り入れています。日当たりのよい場所で日光浴出来、居心地よく過ごせるよう工夫しています。 | 居間は居室のほぼ中心に位置しており、利用者の集いの場となっています。環境作りへの配慮と利用者の興味(カラオケ等)を取り入れた憩いの支援が行われています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにてソファーや備え付けのベンチなどで一人になれたり、気の合った利用者同士仲良く会話したり、それぞれ思い思いに過ごせる居場所になるよう工夫しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が使い慣れたタンスや寝具などを自由に持ち込んでもらっています。一人ひとり好きな花や飾りなどを置いて、居心地良く過ごせるようしています。 | 居室は、一人ひとりの個性が十分に感じ取られる空間となっています。個々の習慣や癖を把握した上で、快く生活できる部屋作り、並びに、安全への配慮に取り組んでいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者が使いやすいようにベッドの位置や高さタンスの置き場所等、気をつけています。必要に応じてすりの増設など行っています。 | | |